

クボタ通信

第**128**期 中間

2017年1月1日から2017年6月30日まで



宮浦港(直島)

表紙写真は、豊島廃棄物の中間処理施設のある直島の風景です。おしゃれなアート作品が島のいたるところに展示されており、アートの島と呼ばれ世界中からたくさんの観光客が訪れます。(P6 TOPICS 参照)

株式会社クボタ

グローバル・メジャー・ブランド 実現に向け 戦略分野での事業展開を一層 加速



株式会社クボタ
代表取締役社長

木股 昌俊

売上高 **8,460** 億円 前年同期比 **+6.3%**

営業利益 **1,006** 億円 前年同期比 **-4.7%**

株主の皆様には格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

クボタ通信（第128期中間）をお届けするに当たり、ご挨拶を申し上げます。

当第2四半期累計(2017年1月1日～2017年6月30日)の売上高は前年同期比499億円(6.3%)増加して8,460億円となりました。国内売上高は機械部門が増加したものの、ダクティル鉄管などの官公需関連が低調に推移したため、前年同期比16億円(0.6%)減の2,806億円となりました。海外売上高はダクティル鉄管や素型材の減少により水・環境部門が減少しましたが、機械部門が北米・欧州・アジアの各地域での増販や前期に実施した事業買収の効果により大幅に増加したため、全体では前年同期比514億円(10.0%)増の5,654億円となりました。

営業利益は増収による増益効果はありましたが、前期の円高の影響が輸送や在庫期間を経て当期中に実現したことなどにより、前年同期比50億円(4.7%)減の1,006億円となりました。税金等調整前四半期純利益は営業利益の減少を為替差損益の改善や有価証券売却益の増加などで補い、前年同期比105億円(10.8%)増の1,076億円となりました。法人所得税は334億円の負担となり、四半期純利益は前年同期比79億円(11.8%)増の751億円となりました。当社株主に帰属する四半期純利益は前年同期を81億円(13.0%)上回る704億円となりました。

株主の皆様におかれましては、今後も変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

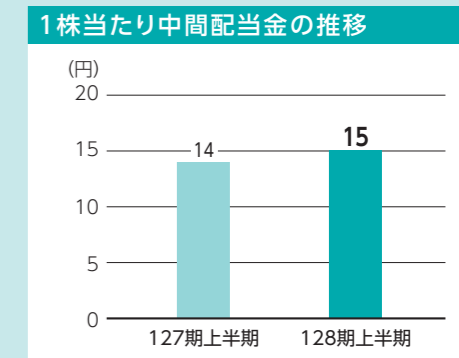
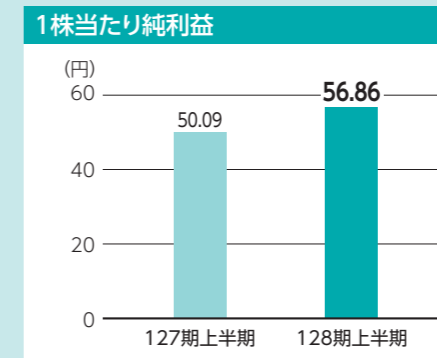
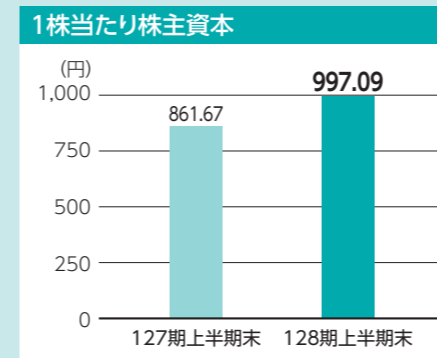
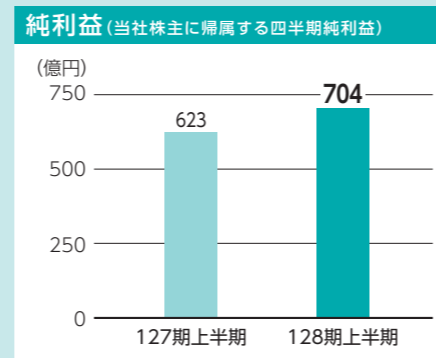
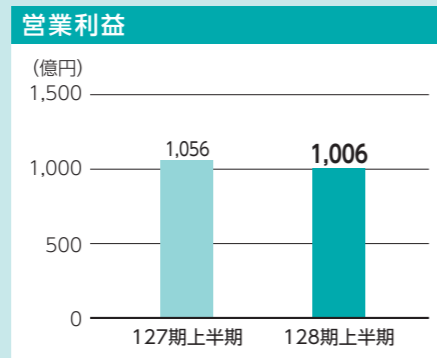
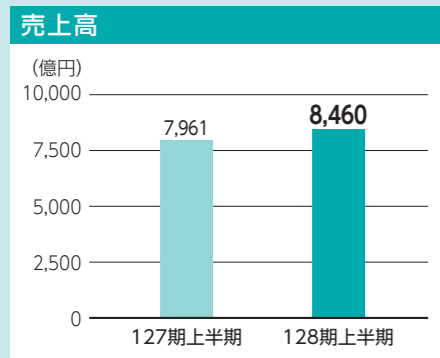
「壁がある。だから、行く。クボタ」ブランド強化プロジェクト開始 ～ブランドパートナーに長澤まさみさんを迎える！～

より多くの皆様に信頼され親しまれるクボタブランド構築に向けて、『壁がある。だから、行く。クボタ』をコミュニケーションスローガンに「ブランド強化プロジェクト」をスタート。ブランドパートナーには、映画・ドラマ・CMなど幅広いフィールドで活躍する女優の長澤まさみさんを迎えました。様々なメディアを通じ、一層のブランド強化に向けたコミュニケーション活動を展開してまいります。

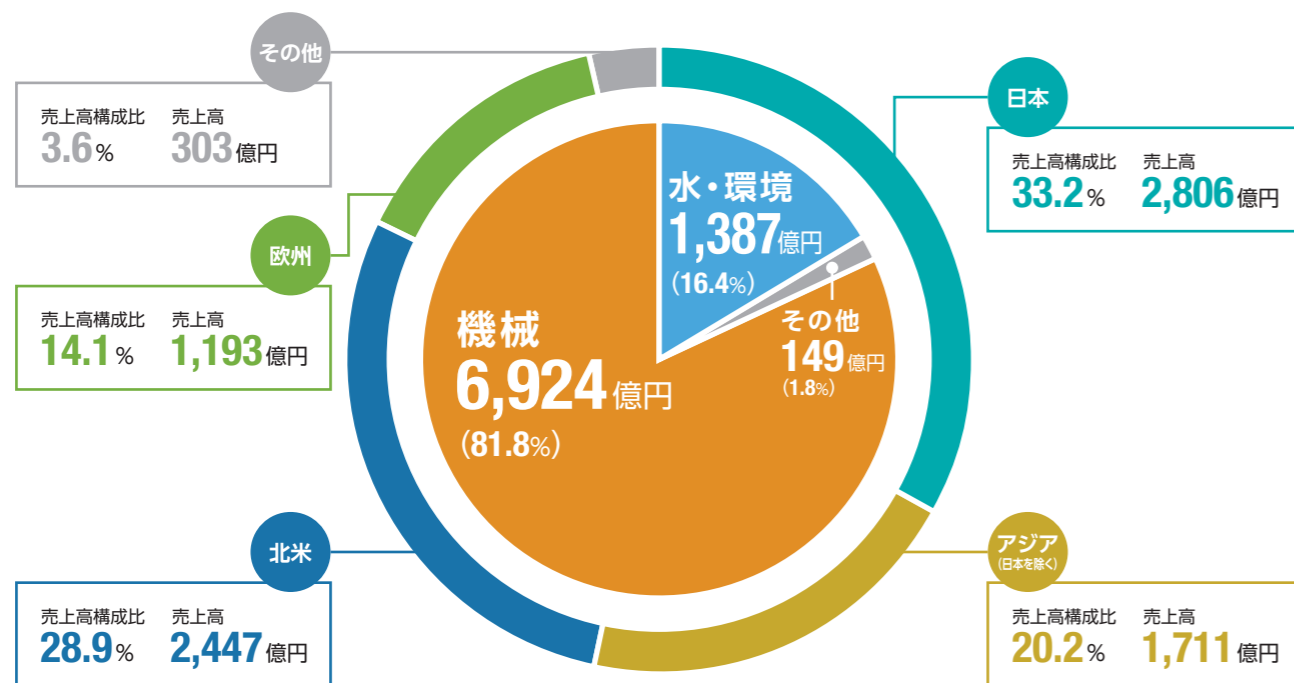


女性が働きやすい職場環境づくりを推進 多様な価値観を認め合い新たな成長力を生み出す ～平成28年度「なでしこ銘柄」に選定！～

当社は平成28年度「なでしこ銘柄」に選定されました。なでしこ銘柄とは、経済産業省が東京証券取引所と共同で、女性活躍推進に優れた上場企業を選定するものです。女性のキャリア形成をサポートする研修の実施や男性の育児休暇取得率の高さなど、女性が働きやすい職場環境づくりへの積極的な取り組みが評価されたものです。



事業の概況



全体売上高(128期上半期) **8,460** 億円

機械

農業機械および農業関連商品、エンジン、建設機械、電装機器

売上高	6,924 億円	前年同期比 +9.7%
セグメント利益	966 億円	前年同期比 -4.8%

国内売上高は前年同期比2.6%増の1,471億円となりました。建設機械などの減少を農業関連商品の増加で補いました。

海外売上高は前年同期比11.7%増の5,453億円となりました。北米では、前期に実施した事業買収の効果に加え、需要の拡大が続く小型トラクタなどが堅調に推移しました。欧州では、円高の影響はあるものの、底堅い工事需要を背景に建設機械、エンジンが拡大したほか、農業

市場向けインプラメントも増加しました。アジアでは、タイのトラクタが乾季作における取水制限の解除などによ



産業用ディーゼルエンジン [V5009]を新開発

自動運転農機「アグリロボトラクタ」を市場“初”投入!

当社は、有人監視下での無人による自動運転作業を可能にした「アグリロボトラクタ」を業界に先駆けて市場投入すべく、本年6月からモニター販売を開始しました。既に販売済みのGPS農機(作業者が乗車した状態での直進または曲線経路での自動操舵走行が可能)をさらに高度化し、農作業の効率化や省人化、高精度化を実現します。IoTの活用によりこれからの農業にイノベーションを起こします。



り大幅に増加しました。中国では、政府補助金予算の削減によりコンバインが低調でしたが、堅調な需要を背景に田植機、建設機械、エンジンが伸長したため、前年を大きく上回りました。

当部門のセグメント利益は国内外での増収による増益効果はありましたが、前期の円高の影響が当期中に実現したことや固定費の増加などにより、前年同期比4.8%減少して966億円となりました。

水・環境

パイプ関連製品(ダクトイル鉄管、合成管、ポンプ、バルブ等)、環境関連製品(各種環境プラント等)、社会インフラ関連製品(素形材、スパイラル鋼管等)

売上高	1,387 億円	前年同期比 -7.5%
セグメント利益	162 億円	前年同期比 +19.0%

国内売上高は前年同期比4.3%減の1,188億円となりました。ダクトイル鉄管や工事の減によりパイプ関連製品が減少したほか、設備の運転・保守事業の減などにより環境関連製品も減少しました。一方、社会インフラ関連

製品は素形材の減を受注環境の良好なスパイラル鋼管の増で補い、増収となりました。

海外売上高は前年同期比22.8%減の199億円となりました。中東向けのダクトイル鉄管や東南アジア向けの素形材などが減少しました。

当部門のセグメント利益は国内外での減収の影響を固定費削減などで補い、前年同期比19.0%増加して162億円となりました。

大阪市中浜下水処理場水処理施設整備事業を受注～国内最大級のMBR施設に省エネ化技術を初導入～

大阪市中浜下水処理場に当社のMBRが採用されました。MBRで処理能力を増強して、老朽化した施設を窒素やりんも除去できる高度処理施設にリニューアルするものです。

また、新開発のMBR省エネルギー化技術「SCRUM(スクラム)」を導入し、消費電力を従来のMBRに比べ50%削減します。



中浜下水処理場



MBRからの放流水

道頓堀川をきれいに

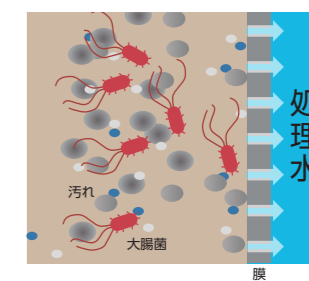
MBRの清澄な処理水を東横堀川、道頓堀川に送水することで水質改善に役立て、水辺の賑わいに貢献していきます。

MBRってなに?

MBR(Membrane Bio Reactor)は膜分離活性汚泥法と呼ばれ、1万分の2mmという小さな孔のあいた膜で処理水を分離する技術です。浮遊物だけでなく大腸菌なども通さないため、安全で清澄な処理水が得られます。クボタは国内下水処理場のMBRで約80%のシェアを有しています。



液中膜ユニット



膜処理のイメージ

その他

各種サービス事業、住宅機材

売上高	149 億円	前年同期比 -0.2%
セグメント利益	16 億円	前年同期比 -15.4%

当部門の売上高は前年同期比0.2%減の149億円となり、売上高全体の1.8%を占めました。

当部門のセグメント利益は前年同期比15.4%減少して16億円となりました。

壁がある。だから、行く。

「いぐさハーベスタ」、約10年ぶりに生産再開

初夏の早朝、朝露したたる青々としたいぐさ畑には、オレンジ色の機械で刈り取る農家の方とそれを見守るクボタの技術者の姿がありました。クボタは、いぐさを収穫する機械「いぐさハーベスタ」の生産を約10年ぶりに再開し、2017年5月に市場へ再投入しました。

日本の伝統産業「い業」の継承に貢献

畳の原料として広く知られるいぐさ。500年の歴史を持つ「い業」ですが、住宅の洋風化などによりいぐさ農家とハーベスタの需要が減少し、2006年までに当社を含めすべてのメーカーがいぐさハーベスタの生産から撤退しました。「機械がなくなると、い業は終わってしまう」。全国のいぐさ生産量の98%以上を誇る熊本県からい業継承への熱い想いを受け、クボタはいぐさハーベスタの再生産に踏み出しました。

直面した壁を乗り越えて

再生産といっても、過去の記録はほとんど残っていませんでした。図面はあるものの、数値や部品の形状の意図が分からず、安易に設計変更もできない…。熊本に通い、お客様の作業を見る、という一からのスタートでした。試作を重ね、何度もテスト。試作部品は百数十点にも上り、多くのサプライヤーにご協力をいただきました。

いぐさの収穫時期は1年のうちたった1ヶ月間。厳しい開発条件の中、再生産を可能にしたのはお客様のご熱意だと言います。「お客様のご協力のおかげでタイトなスケジュールに対応できました。また、熊本地震で大変な時にも関わらず力を貸していただき、感謝の気持ちでいっぱいです」。こうして、念願のいぐさハーベスタの再生産が実現しました。

「守る」という使命

「まだまだやる気のある人たちはいるので、再生産はとても嬉しかった」。笑顔でこう話す農家の方、そしてこれからのい業のためにクボタができることは何か。「必ず喜んでもらえる、この思いが再生産へのモチベーションでした。いぐさハーベスタの技術やノウハウを伝承していくことが私たちクボタにできることです」と開発担当者は言います。当社はこれからも、日本の伝統産業を守り続けます。



いぐさが傷つかないように、収穫は朝露残る朝の3時～6時頃に行います



いぐさを掲げるくまモンのステッカー 農家の方へヒアリングを行う様子

豊島、産業廃棄物処理事業完了

今年7月、香川県の直島において、産業廃棄物処理終了の式典が開催され、実に30年以上にわたって島民を苦しめてきた不法投棄された産業廃棄物の処理は一区切りを迎えることになりました。



豊島の街並み、観光客も多く見受けられます

クボタがやらねば誰がやる

1980年代に地元業者が、シュレッダーダスト、廃油や汚泥など産業廃棄物の不法投棄を開始し、野焼きによる健康被害や汚染物質の垂れ流しなどによる環境破壊が次々と発覚しました。2000年にこの豊島の環境修復事業に関わる施設建設の入札が行われましたが、産業廃棄物の全量再資源化、ダイオキシンなどを含む有害な浸出水の処理という難問、そのうえ稼働状況を詳細に開示しなくてはならないという条件が課され各社は次々辞退していきました。そんな中、最後まで手を挙げ続けたのはクボタ1社でした。



汚染水の処理は今後も続きます

処理水が放流される海岸。今では水が透き通る

立ち上がる壁を乗り越えて

クボタグループは香川県からの委託を受け、豊島で廃棄物の掘削や高度排水処理施設の運転を、直島で回転式表面溶融炉を中心とした中間処理施設の運転を2003年に開始し、施設稼働率の増加、様々なトラブル、予想量をはるかに超える産廃の量などの問題を乗り越え、14年にわたる歳月を費やして産業廃棄物の処理を完了させました。高度排水処理施設では、引き続き豊島に残る水処理を行っています。この前例のない難事業を乗り越えることができたのは「事業を通じて地域社会に貢献したい、環境を守りたい」という社員たちの思いでした。

地域社会に貢献できた幸せ

現場のリーダーは「着任当時は、膨大な廃棄物や風評被害に苦しむ島民の方々に前に不安な気持ちがあった。でも地元の方々と交流や処理事業が進むにつれて、自分自身だけでなく島の雰囲気も前向きに変わっていったように感じた」と言います。産廃の島と呼ばれた島も、今では外国人観光客が目立ち、おしゃれなカフェやアート作品が立ち並び、いつしかアートの島と呼ばれるようになった。この島の変化を14年間見続けてきた彼は、事業完了の感想を聞かれ「幸せな時間でした、事業を通じて地域に貢献できたのですから」と笑顔で話しました。

株主様向け工場見学会のお知らせ

阪神工場



阪神工場外観

当社は、株主の皆様にもノづくりや事業活動についてより一層ご理解を深めていただくことを目的に、株主様向け工場見学会を開催しております。第三回目の工場見学会は「阪神工場」です。迫力ある生の生産現場をご覧ください。この機会にぜひご応募ください。

詳しくは同封の「株主様向け阪神工場見学会のご案内」をご確認ください。

また、前回の「堺製造所」での工場見学の様子は当社ホームページをご覧ください。

当社HPアドレス <http://www.kubota.co.jp/kabunushi/>

工場：阪神工場（武庫川事業所）
所在地：兵庫県尼崎市
生産品目：ダクタイル鉄管

阪神工場（武庫川事業所）は1940年に鑄鉄管の製造工場として操業を開始しました。

現在、水道管路工事の様々な場面・用途で 사용되는ダクタイル鉄管の製造を行っています。人々の生活に欠かせないライフラインである水道インフラを構築するダクタイル鉄管の国内外への供給拠点として、これからもクボタのモノづくりを支えます。



溶けた鉄を流し入れる様子



ダクタイル鉄管

役員 (2017年6月30日現在)

取締役

代表取締役社長 木股 昌俊
代表取締役副社長執行役員 久保 俊裕
取締役専務執行役員 木村 茂
取締役専務執行役員 小川 謙四郎
取締役専務執行役員 北尾 裕一

取締役専務執行役員 飯田 聡
取締役常務執行役員 吉川 正人
社外取締役 松田 譲
社外取締役 伊奈 功一

監査役

常勤監査役 福山 敏和
常勤監査役 坂本 悟
社外監査役 森田 章
社外監査役 鈴木 輝夫

会社概要 (2017年6月30日現在)

社名 株式会社クボタ (KUBOTA CORPORATION)
創業年月 1890年2月
設立年月 1930年12月
資本金 84,100,384,987円
発行済株式総数 1,241,154,216株
株主数 35,548名
従業員数 連結 39,289名(就業人員)
単独 11,344名(就業人員)
本社 〒556-8601
大阪市浪速区敷津東一丁目2番47号
tel (06)6648-2111 fax (06)6648-3862
東京本社 〒104-8307
東京都中央区京橋二丁目1番3号
京橋トラストタワー
tel (03)3245-3111 fax (03)3245-3822
ホームページ <http://www.kubota.co.jp/>

株主メモ

事業年度 毎年1月1日から12月31日まで
定時株主総会 毎年3月に開催
基準日 定時株主総会 毎年12月31日
期末配当金 毎年12月31日
中間配当金 毎年6月30日
単元株式数 100株
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関 三井住友信託銀行(株)
東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
郵便物送付先 〒168-0063
東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行(株)証券代行部
tel 0120-782-031 (フリーダイヤル)
取次窓口 三井住友信託銀行(株)本店および全国各支店
公告方法 当社ホームページに掲載
上場証券取引所 東京証券取引所

